



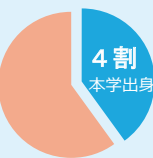

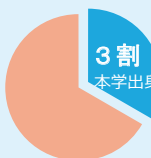

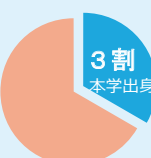

福井大学の 特色ある取組 2019

第3期、福井大学は新たなステージへ

国立大学法人では2016年度から第3期中期目標期間がスタートし、福井大学ではさらなる機能強化に向け、次のような重点的取組を掲げています。

<p>教育・グローバル化</p> <p>P2~P6</p>		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 世界で活躍できる高度専門職業人の育成 ◆ 地域一体型教育の推進 ◆ 教育の国際通用性の向上 ◆ 地域のグローバル化を牽引 ◆ グローバル化社会において地域創生を担う人材の育成
<p>研究</p> <p>P7~P9</p>		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 子どものこころの発達研究 ◆ 先端的画像医学研究 ◆ 遠赤外領域開発・応用研究 ◆ 原子力安全・危機管理研究
<p>医療</p> <p>P10~P11</p>		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 県内唯一の特定機能病院として高度急性期医療機能の強化 ◆ 高品質で高い安全性を有する医療の提供 ◆ 地域医療や先端的医療を担う医療人の養成
<p>社会貢献・国際貢献</p> <p>P12~P13</p>		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 産業発展のためのイノベーション創出 ◆ 地域の知の拠点としての教育研究 ◆ 教員養成での国際貢献

多くの卒業生が福井を支えています

<div data-bbox="207 1344 526 1523">  <p>4割 本学出身</p> <p>県内教員数の割合</p> </div> <div data-bbox="391 1344 534 1523">  </div> <p>教育学部 (旧教育地域科学部)</p> <p>—地域の次世代を育てる教員の養成—</p> <p>○福井県の教員数 (小中高・特別支援学校) 7,428人 うち本学の卒業生数 3,000人</p>	<div data-bbox="654 1344 973 1523">  <p>3割 本学出身</p> <p>県内医師数の割合</p> </div> <div data-bbox="869 1344 981 1523">  </div> <p>医学部</p> <p>—地域医療を担う医療人の養成—</p> <p>○福井県の医師数 2,002人 うち本学の卒業生数 584人</p> <p>○福井県の看護師・保健師・助産師数 9,288人 うち本学の卒業生数 342人</p>	<div data-bbox="1085 1344 1420 1523">  <p>3割 本学出身</p> <p>県内エンジニア・科学研究者数の割合</p> </div> <div data-bbox="1268 1344 1428 1523">  </div> <p>工学部</p> <p>—地域産業を創造する技術者の養成—</p> <p>○福井県のエンジニア・科学研究者 13,700人 うち本学の卒業生数 4,480人</p>
<p>※福井県のデータは、教：2018年度学校基本調査、医：2016年医師・歯科医師・薬剤師調査、看：2016年衛生行政報告例、工：2015年国勢調査より。 福井大学卒業生のデータは、2017年度時点の同窓会データより。(工学部は経営戦略課調べ)</p>		

実践を重視した教員の養成

(教育学部・教育学研究科・連合教職開発研究科)

地域と協働する実践的教員養成プロジェクト

～学部教育～

探求ネットワーク事業

子どもたちと共に、人形劇、料理作り、まちかど調査隊、FFC（ふれあいフレンドクラブ：障がいのある子どもたちが対象）などの探求活動を展開しながら、子どもの主体的な学習活動を支え、組織学習力を養います。



探求ネットワーク事業

ライフパートナー事業

学生が、不登校/発達障がい児童生徒の学校や家庭を訪問し「よき話し相手」として接し、交流を深め、児童生徒の自立を側面的に援助します。共に活動する中で互いに信頼関係が生まれ、子どもの「心の支え」として活動します。この事業には、子どものこころの発達研究センターも参加しています。



教育実践研究（教育実習）

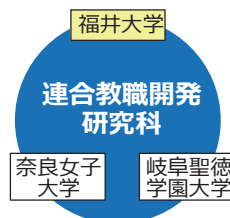
教育実践研究

学生が4年間かけて履修する総合実践プロジェクトであり、1年次から附属学園等に出かけ、実践と研究を往還しながら活動します。

～大学院教育～

特色ある3大学による「連合教職大学院」

本学を基幹校に、教員養成に優れた実績を持つ奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学が参加して、評価の高い「学校拠点方式」を軸とした3つのコースにより、若い世代の教員や学校で核となる教員、管理職を養成します。



（学校拠点方式とは）

幼小中、特別支援学校等の学校現場（拠点校、連携校）を学びの場とする本学独自の教育方式。県域を越えた3大学が連合し、全国の約60拠点で学んでいます。

三位一体教育改革

基幹校である福井大学では、学部・大学院・附属学園の有機的な結合のもと、研究実践者教員を中核とする教員養成機能の抜本的強化を推進しています。

- ・教職大学院を附属学園に置き、附属学園を先端的教師教育研究の拠点に
- ・福井県内全ての管理職候補者が無理なく大学院で学べるシステムを構築し、学校改革マネジメントの力量向上に
- ・附属学園に新たに教職大学院所属の「研究実践者教員」を配置



～附属学園～

義務教育学校：子どもの成長発達に即して、より包括的に教育活動を展開できる小学校から中学校まで一貫した「義務教育学校」を設置しています。

幼稚園：幼児期から子どもの学びを、遊びを通して組み立てていきます。週4日間、放課後の延長保育を実施し、課題別保育を実践すると共に、働く保護者の支援を行っています。

特別支援学校：充実した生活教育を実施しています。同時に教員はインクルーシブ教育を推進させ、通常教育の中での教育活動を支援しています。



義務教育学校での学びの様子

医学部理念

愛と医術で人と社会を健やかに

(医学部・医学系研究科)

真理を探究する知への愛－

人命を尊重し人間に共感する人への愛－

医学教育の国際標準化

医学科では、2016年度に世界医学教育連盟が定める「医学教育のための質的保証」に準拠したモデル・コア・カリキュラムを編成し、高度専門職業人として国際的に通用する医師の育成を促進しています。

国際認証評価に向けた取組

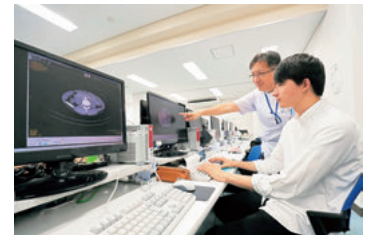
本学が独自に開発した学生用電子カルテ・ポートフォリオ・課題提出機能・教員用評価機能を一体化したICTシステム (CESS) を整備し、有機的な臨床実習を実現するとともに、診療参加型実習の質と安全を保証します。

このシステムは、「文科省主催医学教育ワークショップ」や「日本医学教育学会」等で非常に高い評価を頂き、今後、日本全体の医学教育の向上に寄与できるものです。



革新的画像医学教育： 高度な画像診断教育で医師の「診る」を鍛える

人体解剖画像、病理組織画像、CT、MR、PETなどの先進的臨床画像や分子イメージング画像を、臨床基礎科目および臨床実習の場で利用し、高度化・精緻化する画像診断を、十分に活用できる医師を養成しています。



画像診断教育の様子

看護教育： 多様化する社会のニーズに応える専門的な看護力を育成

幅広い職業選択（看護師・保健師・助産師）ができる独自カリキュラムを実施しています。また、社会のニーズに応え、多職種連携の在宅医療を担う看護師教育の充実を目指し、医学科学生とチーム医療を意識した「地域ケア実習」を実施しています。また、キャリアアップ実習では、将来のキャリア形成のために国内あるいは海外（英国等）の病院で、高度実践看護師体験実習を選択制で実施できます。



バーミンガム保健大学

HOT NEWS

地域における看護を牽引できる看護師の養成を目指す 看護学科新カリキュラムがスタートしました

地域の文化や特色、課題を踏まえ、地域でリーダーシップを発揮できる看護師の養成を目指した、看護学科の新しいカリキュラムが、2019年4月から始まりました。

新カリキュラムでは、患者さんの生涯を見据えた看護の視点を養うため、専門科目を人の「ライフサイクル」に着目した構成に再編するとともに、入学時から将来のキャリアデザインを考える科目を開講しています。地域をより深く理解するため新設した独自科目「ふくい看護論」では、フィールドワークを通し、ふくいの人々の生活と健康、地域医療・ケアを学びます。

これらの科目では、上級生が下級生を指導する「屋根瓦方式」の教育も取り入れ、将来のキャリア構築と地域のニーズを踏まえた医療やケアを実践できる看護師を育成します。



地域の診療所などでの臨地実習の様子



採血演習の様子

夢を描き、夢を実現する 世界に羽ばたく技術者の育成

(工学部・工学研究科)

Global Imagineerの育成

工学部では、2004年度よりImagineerの育成をという理念を掲げて教育改革を推進しています。

Imagineer = Imagine(心に描く)+engineer(技術者)。現在では辞書にも掲載されている英単語です。技術者がここらに描くべきものの一つは、人々の暮らし。工学の使命は人々の安全・安心な暮らしをデザインすること。人々の暮らしに想いを馳せることは、コンテキストを共有する日本人の中では比較的容易ですが、本学では、その想いを世界の人々へと拡張するGlobal Imagineerへの挑戦を2012年度より開始しています。英語教育も、コミュニケーションツールを得ることのみならず、思考の枠組みを拡張することを目指して推進しています。

自己変容型知性を育む創成教育への挑戦

Intelligence (知能) については、AIが人間を越える日が近いのかもしれませんが。しかし、知能指数で測れるような知能と知性 (intellect) は本質的に異なります。

教育がなすべきことは、どんな状況になってもしなやかに生き延びることのできる「知性」を育むこと。そうした知性を育む方法論は確立していませんが、私たちは学科・学年の枠を越えた主体的グループ活動を学科横断型の教員組織で支援する創成教育を通じて、新たな能力育成に挑戦しています。



人工知能(AI)やヒューマノイド・ロボットを作り出す人材を育成

産業現場への即応、そして次世代産業の創成

現代の技術者には産業現場への即応と新たな時代を切り拓く能力が同時に求められます。産業界からの実践現場の提供とエキスパートの教育参加による自律型産業人材の育成プログラム(実践道場)や繊維系大学連携(信州大学・福井大学・京都工芸繊維大学)による次世代繊維・ファイバー工学分野の人材育成といった多様なプログラム等を通じて、高度専門技術者の育成に取り組んでいます。



超臨界染色技術の研究

HOT NEWS

国公立13大学が連携した卓越大学院が始動 5年一貫の博士課程プログラムで、知のプロフェッショナルを育成

本学が共に取り組む「パワー・エネルギー・プロフェッショナル(PEP)」を育成する大学院博士課程プログラム(責任大学:早稲田大学)が、2019年4月から開始しました。

情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会(Society 5.0)で中核に位置付けられ、エネルギー生産から流通、消費までを、IoTや人工知能等の最先端テクノロジーと技術を駆使し、総合的に管理・制御できるようにする「エネルギーバリューチェーンの最適化」により、イノベーションを主導する高度な「知のプロフェッショナル」を育成します。

※本プログラムは文部科学省が実施する「卓越大学院プログラム」の採択を受け実施するものです。

【国内大学】

早稲田大学/北海道大学/東北大学/
山梨大学/福井大学/首都大学東京/
横浜国立大学/名古屋大学/大阪大学/
広島大学/徳島大学/九州大学/
琉球大学

【海外大学】

テネシー大学(ノックスビル校)/
ワシントン大学/ミュンヘン工科大学/
シカゴ大学/清華大学/
チュラロンコン大学 (ほか)

【企業・研究機関】

米国電力研究所/電力中央研究所/
産業技術総合研究所(福島再生可能エネ
ルギー研究所)/パワーアカデミー(国内
10電力会社ほか)/JXTGエネルギー/
東京ガス/大阪ガス (ほか)

教育研究プラットフォームを
世界最大規模の連携で構築

グローバル化する地域の発展に寄与できる人材の育成

(国際地域学部)

世界と地域を繋ぐ徹底した英語教育と海外留学を通じた異文化理解教育

グローバル社会で活躍できる人材を育成するために、海外留学を含めた多様な経験の機会を提供しています。

地域の企業・自治体等と連携した地域密着型課題探求プロジェクト

福井の産業振興や地域振興の現状・課題に触れることを目的に、グループ活動を実施しています。企業や自治体等の皆様へのヒアリングを通じて、各分野の実情や課題を学び、その知見を最終報告会でプレゼンテーションします。

医学部・工学部との連携による幅広い学識を培う文理融合型教育

現代の地域社会が抱える複合的かつ具体的な問題に対し、その解決に向け、自然科学系の基礎的な知識や方法の助けを借りて、複合的なアプローチを図ります。

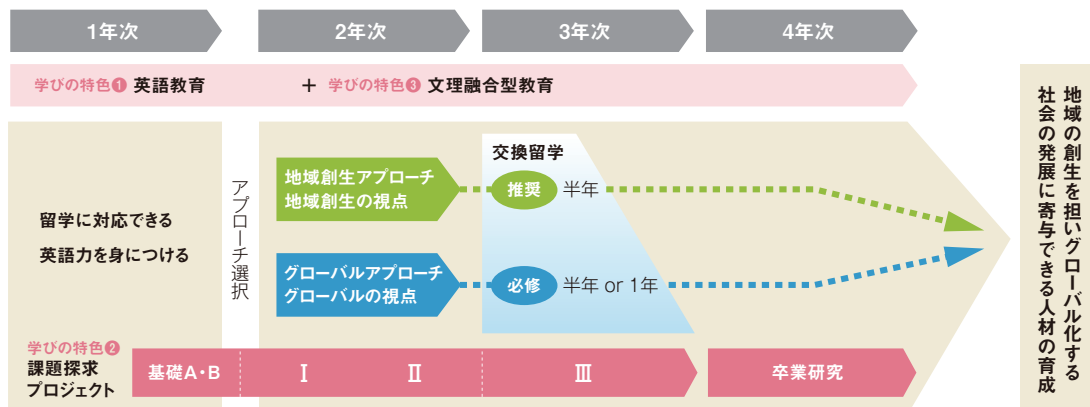


授業風景



天保2年(1831)創業の味噌蔵「米五」でのヒアリング

入学後の流れ



TOPICS

交換留学プログラムを通じた異文化理解

国際地域学部では、3年次に半年間または1年間の交換留学制度を設けており、グローバルアプローチは必修、地域創生アプローチは強く推奨としています。留学要件として、申請時までTOEFL530点以上、累積GPA2.5以上を満たすことを求めており、留学希望の学生はその要件をクリアすべく日々勉学に励んでいます。

当学部からは2017年度～2018年度の2年間で36名の交換留学生を派遣。交換留学先はマカオ、ベトナム、台湾、韓国など、アジア諸国の他、アメリカ、ドイツ、リトアニア、ルーマニア、イタリアなどがあります。

協定締結校からの留学生受入も本格的に開始し、国際色豊かなキャンパスになっています。



リトアニア：現地小学校での日本文化交流

国際社会に貢献できる人材の育成

(全学)

グローバル・ハブを拠点とした世界につながる取組

文京キャンパスの国際交流スペース「グローバル・ハブ」には、ソファや雑誌、テレビを設置し、リラックスした雰囲気では様々な国際交流や情報収集を行うことができます。松岡キャンパスではマルチラーニングスペース等を活用してイベントを実施しています。

また、海外留学経験者・外国人留学生の学生スタッフが、海外留学や英語学習をサポートします。

学生同士のピアサポーターによる語学学習支援サービスU-PASS (University Peer Academic Support Service)では、外国人留学生を含めて、学生同士で協働して学び合い、言語力に自信が持てるようサポートしています。



グローバル・ハブ



U-PASS

世界の人々と学び、協働する海外留学

活発な国際交流及び国際水準での教育・研究を推進し、地域の国際化及び豊かな社会づくりに貢献できる人材の育成を目指し、学生一人ひとりの目的や関心に合わせ、充実した海外留学の機会を提供しています。

多様な海外留学制度

1週間～3カ月程度の「短期海外研修プログラム」では、多様なプログラムをレベル・内容別の6タイプに分類し、各学生の学習段階や将来設計に合わせて最適なプログラムが選択できます。

また、3カ月以上の中・長期留学では、現在60以上の学術交流協定校への交換留学（半年～1年間）等、幅広い選択肢を用意しており、語学力の集中的な向上や専門分野の知識・技術の研鑽を目指しています。

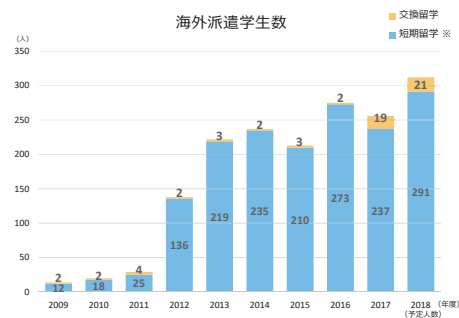
2012年度以降、海外留学を推進してきた結果、海外派遣学生数が大幅に伸びており、全学的に海外留学が定着してきています。



タイ・カセサート大学



アメリカ・ポートランド州立大学



TOPICS

外国人留学生受入れ体制の充実

本学では、世界中の国々からの外国人留学生を多数受入れており、本学の更なる国際化を目指して、留学生受入れ体制の充実・強化を進めています。貴重な留学期間中、集中して勉学に取り組めるよう、快適な生活環境の整備に努めています。

2019年4月には、文京キャンパス敷地内に全20室の留学生用の宿舍「牧島ハウス」を新設しました。留学生の受入れ体制の改善は、キャンパス内の学生交流の充実に加え、本学学生が海外留学先で手厚いハウジングサービスを受けられることにもつながり、総合的に、本学のグローバル化に貢献します。



学内での国際交流

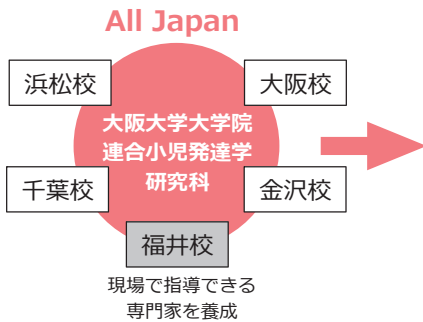
子どものこころの発達研究センター

子どものこころに取り組む

少子化が進む中、発達障がいを含むところに問題を抱える子どもが急増しており、未来を担う子ども達を守り育てていくために、急増原因の科学的究明と専門家の育成が急務となっています。

本学の「子どものこころの発達研究センター」では、分子生物学技術やイメージング技術を駆使した脳機能の解明に取り組むとともに、新たな発達障がいの診療技法の開発を目指した研究を展開しています。附属病院「子どものこころ診療部」では、小児期・児童青年期のこころの問題の診断・治療を通して、子どもの問題行動への対処法の開発や、養育者に目を向けた取組みを実施し、同時に子どものこころの問題に関する地域ネットワークの構築にも力を入れています。

さらに、研究成果を教育に還元する目的で大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学の5大学連合による大学院「連合小児発達学研究科」では、All Japanの教育研究体制で、子どものこころの諸問題に従事する人材の育成に取り組んでいます。



教育

子どものこころと脳の発達に関する 高度専門家の育成

福井県内外の学校・病院・福祉施設等における発達障がい児及びその養育者支援のための高度専門家を育成



ラボ・ミーティング風景

研究

子どものこころ・発達障がいの研究

- ・かおテレビでの自閉スペクトラム症のオキシトシン機能不全との関連を発見
- ・自閉スペクトラム症の新規関連遺伝子 Lrnf2/SALM1を発見
- ・匂いで誘発される社会行動ではNrp2が嗅球の回路形成を規定することを発見
- ・自閉スペクトラム症の新しい治療手段の開発に着手
- ・エビデンスに基づくマルチリートメント予防モデル構築と社会実装に着手

科研費細目別採択件数 「子ども学」ランキング1位



かおテレビ：子どもの視線を赤外線測定し、子どもの「社会性」の発達水準を数値化する

専門医育成

小児期・児童青年期のこころの専門医の育成

小児期・児童青年期のこころの専門医およびコメディカル等の人材育成のための研修プログラムを開始



「児童青年期こころの専門医育成部門」設置及び研修プログラム発表会見

医療

子どものこころ・発達に関する 専門的な医療の提供

小児科医、児童精神科医、心理士などの経験豊富なスタッフが連携し、一人ひとりに合わせたきめ細やかな診療を提供



診療風景



高エネルギー医学研究センター

高エネルギー電磁波の医学利用に関する研究を推進

サイクロトロン及びポジトロン断層撮影 (PET/MRI) 装置を用いて生体の機能や病態を画像化し、疾患の診断と予防に関する研究を推進しています。(米国ワシントン大学や放射線医学総合研究所他と学術提携)

PET分子イメージングの包括的研究を推進

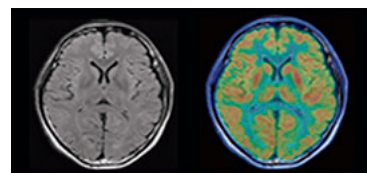
- ・新規PET薬剤等の開発研究や疾患動物モデルなどを用いた基礎研究
- ・PET/MRIを用いた診断・治療に関する臨床研究
- ・脳PETやMRI画像を用いた脳機能研究



世界有数の最新型PET/MRI装置

画像医学研究を担う人材の育成

- ・医学、薬学、工学などの様々な学問分野における幅広い教育



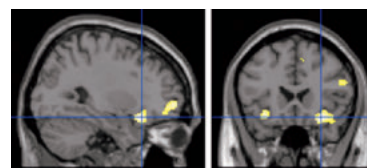
PETとMRIの融合画像

医工連携による産学官共同研究

- ・パナソニックライフインフォマティクス共同研究部門を設置し、産学官共同研究を実践

子どものこころの発達研究センターとの共同研究

- ・機能的MRI (fMRI) を用いた脳発達に関する機能画像研究



学童～思春期に年齢とともに活動が変化する脳領域 (カラー)

遠赤外領域開発研究センター

高出力遠赤外 / テラヘルツ波分野における世界的拠点

世界最高周波数 (1テラヘルツ超え) を記録した独自開発の高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」を応用した遠赤外領域の研究を推進しています。

遠赤外 (テラヘルツ光) 領域の先進的・先導的研究

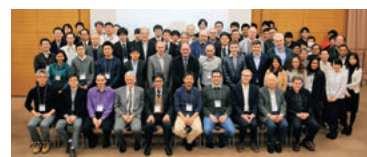
- ・高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」のさらなる高性能化
- ・ジャイロトロンの高周波・高出力電磁波を利用した電子スピンエコー測定装置の開発



電磁波発生装置「ジャイロトロン」

国内外の研究機関とグローバルなネットワークを構築

- ・国内外多数の研究機関と学術交流協定や共同研究覚書を締結し、グローバルな共同研究と学術交流を展開
- (国内外10機関との学術交流協定、国内外10機関との共同研究覚書を締結)



遠赤外技術に関する国際会議 (2018年に福井大学で開催)

附属国際原子力工学研究所

原子力の安全性向上、防災危機管理の向上のために

北陸・中京・関西圏の大学、研究機関との連携や周辺原子力施設を核とした研究拠点の形成をもとに、地域課題に対応できる人材育成、研究を進めるとともに、グローバルにも活躍できる人材の育成を進めています。

人材育成

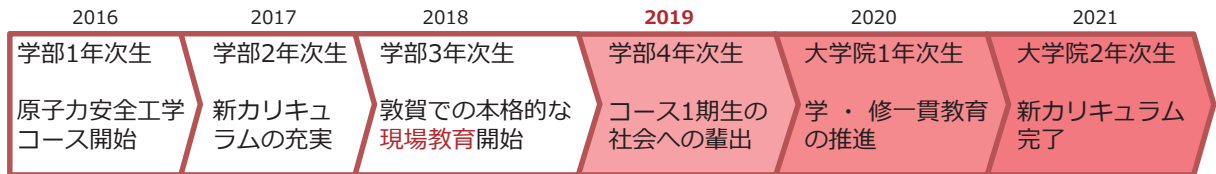
- ・原子力に関する学部基礎教育
- ・原子力・エネルギー安全工学専攻での大学院生の専門教育
- ・国内外からの研究者・研究員の受入れ、県内の原子力施設を活用した質の高い国際的人材育成



グローバル人材育成
(学生と外国人研究者との討論)

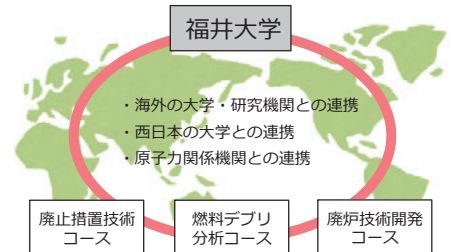
[これからの原子力の安全を担う基盤人材～先導する人材の育成]

◇2016年度工学部学科構成の再編に伴い、工学部機械・システム工学科に「原子力安全工学コース」を設置しました。2018年度（3年次生）から敦賀キャンパスで県内の原子力関連施設を活用した実践的専門教育を実施し、学・修一貫教育を推進しています。



◇原子力規制人材育成事業「官学連携による原子力規制人材育成（福井モデル）」では、福井県が国際原子力機関（IAEA）との覚書を締結し世界の原子力の安全を支える人材育成に積極的に取り組んでいることをふまえ、福井県との連携による原子力の規制に係る学生、若手行政職員育成の仕組み構築に取り組んでいます。

◇福島第一原子力発電所廃炉現場のニーズを踏まえた「廃止措置技術」、「燃料デブリ分析」、「廃炉技術開発」に関する基盤研究を実施し、その研究をベースとした3コースの人材育成カリキュラムを構築し、福島第一原子力発電所廃炉における課題解決に貢献できる高い知識と社会貢献意識を持った広い専門分野の若手人材を継続的に育成しています。



廃止措置研究・人材育成強化プログラム

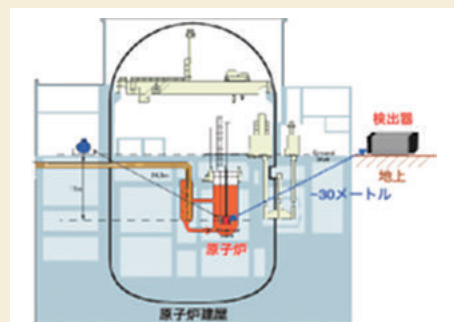
研究

- ・福井県嶺南地域の研究機関、民間企業等との共同・協力による、実炉を対象とした原子力の基礎・基盤研究
- ・フランス、アメリカをはじめとする海外の研究機関との活発な学術交流・国際的な原子力安全研究
- ・原子力の安全性向上、防災危機管理、廃止措置に関する研究

TOPICS

ニュートリノを用いた
原子炉稼働状況の遠隔モニタリング研究

原子炉建屋の外に検出器を設置し、原子炉における核分裂由来のニュートリノを観測することで、原子炉内部を安全かつ独立にモニターすることを目指しています。素粒子であるニュートリノを原子力分野に応用するユニークな研究です。



原子炉ニュートリノモニター概要図

最高・最新の医療を安心と信頼の下で

県内で唯一の特定機能病院として先進医療を提供

「地域医療の砦」として最重症疾患患者を受け入れています。

大学病院初の北米型ER救急体制

一次救急から三次救急まで、全ての患者のニーズに応じた救急医療を、365日24時間体制で実践しています。



全ての患者を受け入れ
「地域医療の砦」として迅速に対応

パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）と 「看護総合力育成プログラム」の実現

- ・全国初の「二人三脚方式」の病棟看護方式
- ・新人看護師に対して育成チームによる支援体制



二人一組のチームで看護ケアを行う

急性心筋梗塞発症患者の救命率の向上に資する 「クラウド型救急医療連携システム」の開発

福井県内の5消防本部12救急隊、福井県防災ヘリコプターおよび急性心筋梗塞救急搬送指定医療機関の5病院に導入され、へき地の救急要請現場から心電図の送信が可能になったことにより、急性心筋梗塞発症患者の救命率の向上を実現しました。

「福井大学病院の得意な治療がわかるweb版」を公開

「福井大学病院の得意な治療がわかる本」を更新し、web版として、附属病院ホームページで公開しました。本院各診療科・診療部門の医師が、得意な治療や最新治療、疾病の詳細などを一般の方にもわかりやすく解説しています。

書籍版は院内ローソンおよび県内書店で販売中です。

URL : <https://www.hosp.u-fukui.ac.jp/specialty/>



TOPICS

医学部附属病院に、県内唯一の「がんゲノム外来」を開設

がんに関連する遺伝子変異を解析し、最適な治療を探る「がんゲノム外来」を、京都大学と名古屋大学の医学部附属病院と連携して、2018年11月1日、本格稼働させました。

化学療法や手術といった標準的ながん治療では効果があがらないなどの条件を満たした患者さんを対象に、主治医からの紹介で受け付けています。一般的に、検査から実際の治療に結びつくのは20%弱と課題はありますが、がん患者さんごとに効果のある薬剤をみつける個別化医療の実現、そして、治療の最適化が期待されています。2019年度中には保険診療として認められる予定です。

【お問合せ先】がん診療推進センター 0776-61-3111（代表）

附属病院ホームページからがんゲノム外来の詳細を確認できます。

<https://www.hosp.u-fukui.ac.jp/consultation/special-outpatient/cancer-genome/>



開設に係る記者説明会の様子

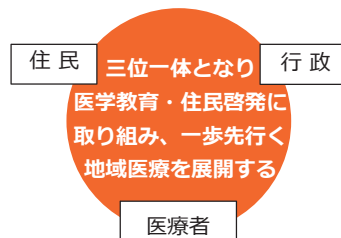


地域医療の担い手の育成

地域の医師は、地域が育て、地域が守る

医学部地域プライマリケア講座では、高浜町和田診療所、高浜病院等において学生や研修医教育を通じて地域医療再生の鍵となる家庭医・総合医を育成しています。

- ・外来診療をはじめ救急診療、在宅医療、健康相談
- ・医学生・研修医教育だけでなく町民の皆様への啓発活動
- ・医療システムの研究や健康動態の調査



福井メディカルシミュレーションセンター

県内すべての医療従事者を対象に、多様な実技トレーニングのできる研修施設を整備しています。検査・治療等の疑似体験カリキュラムを導入し、地域医療人教育を高度化します。

- ・医学生・看護学生、医師、看護師等医療従事者の実技研修
- ・多職種連携トレーニング
- ・救急対応の標準化
- ・県内医療従事者の生涯教育の充実



縫合と結紮の基本（実技）の様子

<2018年度実績>
毎月延べ約550名の医師・看護師・学生・コメディカルの方が利用
(うち学外からの利用者年間約200名)

臨床教育研修センター

「次世代を担う医療人を育てるために」をテーマに、卒後臨床研修の円滑な実施を始めとし、学生・医師・看護師および医療従事者の方に技術や知識を修得する場を提供することを目的に設置されました。

- ・本院で研修する初期臨床研修医の勉強・交流の場
- ・院内外の医療従事者を対象としたセミナー・講習会の開催



初期臨床研修医向けコアレクチャーの様子

TOPICS

病院再整備事業完了

病院再整備事業は2018年4月をもって完了し、関連事業として進めていた附属病院駐車場の改修工事も2019年1月に完成しました。

新病棟の建設に続く既存棟改修工事では、病院正面玄関から新病棟への直線的な動線となる「ホスピタルストリート」や、吹き抜け状の待合空間に新たにエスカレーターを設置した「アトリウム」、外来診察室を房型に配置した「ユニバーサル外来」、入退院支援や地域医療連携等の患者サービス窓口を集約した「患者総合支援センター」などが整備され、患者さんのアメニティーや診療機能の向上が実現されました。



改修された附属病院駐車場



ホスピタルストリート



患者総合支援センター

産学官連携本部

産学官でイノベーションをハイブリッド推進

教員、URA、事務職「協働」による持続的産学官連携活動への取組事例

「ひとつ屋根の下」の協働！

「ふくい産学官共同研究拠点」

燃料電池やめっき処理、レーザー微細加工などの研究に必要な最先端の試作・評価機器を30種類設置し、環境・エネルギーに関する共同研究を推進。さらに自前でも、新しい先端機器を続々と配置。

「オープンR&Dファシリティ」

学内の大型計測機器類を結集した研究開発施設を整備し、地域企業等と大学が連携してソリューション追求型の研究開発を推進。



先端機器を利用した3Dプリンティング



最先端計測機器

イメージを「見える化」する試作！

「インキュベーションラボファクトリー（ILF）」

大学のもつ技術シーズを、地域の「ものづくりの匠」の技を駆使して「試作品」を製作。市場性を問い、産業界へ橋渡し。さらに、市場の反響を見て、事業として一歩踏み出す活動も。

〈ILFにおける試作品の例〉



浅井戸・加圧給水用ポンプ

油管理計

「知」の創出を支援する専門人材！

「URA（リサーチアドミニストレーター）」

新たにT-URA(TはTechnology, Trainig, Transfer等を意味する)の取組みを加え、研究現場における産学の情報集積、機器分析を通じた人材育成、技術相談等もカバー、大学を基軸に知的創造サイクルを回すエンジンとして、研究者とともに研究活動の企画・マネジメントを通じ、研究の卓越性を探究します。

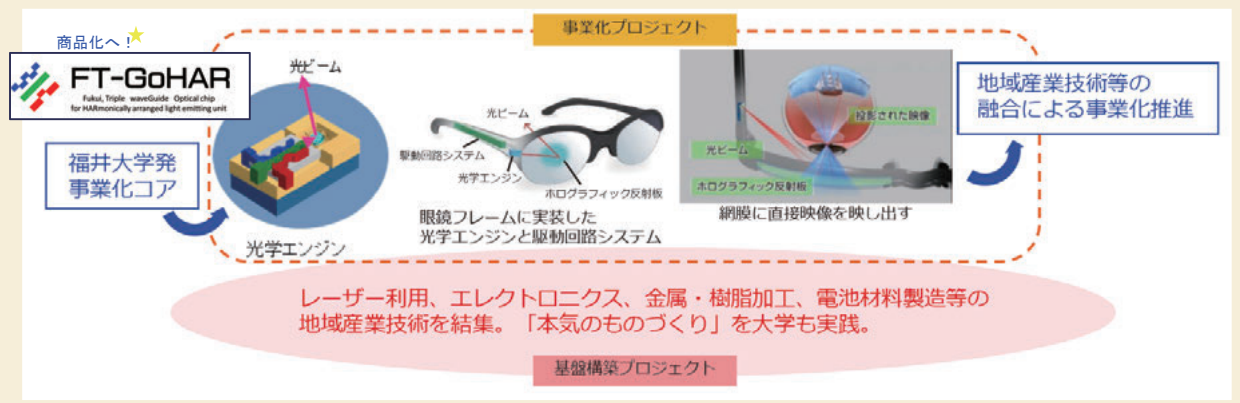
TOPICS

挑戦！「稼ぐ力」を大学に！

「ワンチップ光制御デバイスによる革新的オプト産業の創出」

※地域イノベーション・エコシステム形成プログラム（文部科学省 2017～2021年度）

光の制御技術をコアとして、光学エンジンの高効率合波特性と小型化の両立を実現し、ワンチップ化した超小型光学エンジン事業と革新的オプト産業の創出を図ります。さらに福井地域の有する多様なリソースの活用と、産学官金の連携により、超小型光学エンジンの用途展開、事業化を推進するため、2018年7月に福井大学発ベンチャーが設立されました。



COCからCOC+へ～その中で目指す地域創生～

COC事業：地（知）の拠点整備事業（2013～2017年度実施）

2013年度から、県内自治体の地域課題である重点5分野に戦略的に取り組むとともに、地域での実践力と創造力を有する学生を育成するため、教育カリキュラム等の改革を行い、全学を挙げて「福井の地（知）の拠点づくり」を進めてきました。

目標
達成!

- ・ 共通教育における地域コア・カリキュラムの体系化を図り、より地域を志向した内容に充実させるとともに、地域の抱える現実的な課題について学生が主体的に学ぶ学修（アクティブ・ラーニング）を自治体や産業界等と連携・協働し展開することで、学生の学びに貢献しました。
- ・ 福井県および県内の9市・3町と連携協定を締結し、連携事業を進めることで、地域の課題解決に繋がる成果を挙げました。

COC+事業：地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（2015～2019年度実施）

2015年度からは、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の責任大学として、県内の4年制大学（参加大学：福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学、敦賀市立看護大学、協力大学：福井医療大学）と、福井県ならびに地域の産業界等と一体になって、地域の持続的発展に貢献するとともに、学生の地元定着率の向上を目指しています。2017年度において、中間評価結果として地（知）の拠点大学による地方創生推進事業委員会から「総括評価：S」を得ています。

2018年度において、全国でCOC+事業を展開している秋田、岐阜、佐賀、富山各県の大学生、教職員ら一堂に会した「はばたけ地域創生士！サミット」を2018年11月に開催。県外の30大学や行政機関・企業を含む計52団体約200名が参加しました。

<到達目標：学卒者の地元就職率の10%向上、雇用創出85名>

約1800人の
学生が履修
しています



サテライトキャンパス（フスクエア）で
地域を知るための講義を共同開講

2年目となる2018年度は
「ふくい地域創生士」75名
を認定。また、「ふくい地
域創生アワード」に4名が
初めて表彰されました！



※「ふくい地域創生士」とは福井大学の商標登録で、地域を学び、自分を知ることにより「地域に貢献できる人材」と認定された証です。

※「ふくい地域創生アワード」とは福井地域創生士の中から、地域の課題解決に繋がる顕著な業績を上げた学生を表彰するものです。

国際貢献

国外機関と連携した国際的教育実践研究

OECDやJICAと連携し、NIE（National Institute of Education）やWALS（The World Association of Lesson Studies）と協働で、「学校拠点方式」による教員養成と教師教育を世界展開します。

2018年11月、教員研修や教員養成研修に携わっている教育行政官など、アフリカ8カ国から12名を受入れ、アフリカ圏の教育の質向上を支援しました。



少人数グループでのディスカッションの様子

エジプトの若者の能力強化を目的とした人材育成事業

連合教職大学院では、エジプトの若者の能力強化を目的とした「エジプト・日本教育パートナーシップ」の人材育成事業により、2018年度からの4年間で約680名の教員を研修員として受入れます。

2019年2月に第一陣として、「学校運営」と「技能教科等の教育活動」コースの受講生計42名が本学を訪れ、教育学部附属義務教育学校や福井市公立学校で学校行事や授業を参観。授業研究などの日本特有の教育手法を紹介したほか、今後、本学教員がエジプトの現地を訪れ、帰国後の取組みをフォローアップするなど、包括的な支援を行っていきます。



開講式の様子

就職率11連覇

教育地域科学部
98.0%医学部
93.0%工学部
98.5%

高い就職率！

大学通信調査「全国大学実就職率ランキング2018」において、本学は複数学部を有する国立大学では11年連続全国1位となりました。

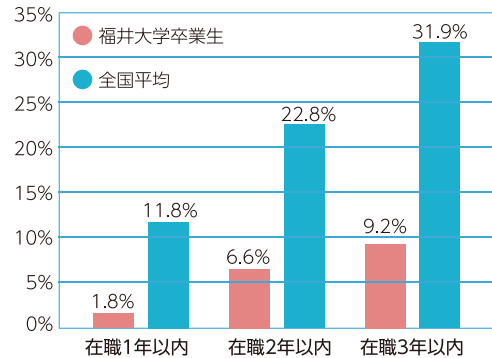
低い離職率！

在職期間3年以内の離職率（9.2%）は全国平均（31.9%）を大幅に下回っており、企業からはその高い定着率が評価されています。

実就職率ランキング 複数学部を有する国立大学

	1位		2位		3位	
	大学名	就職率	大学名	就職率	大学名	就職率
2018	福井大	97.3	岐阜大	94.8	三重大	94.0
2017	福井大	97.4	九州工大	95.5	秋田大	93.9
2016	福井大	96.8	九州工大	95.8	三重大	94.3
2015	福井大	96.1	群馬大	94.0	九州工大	93.9
2014	福井大	96.7	九州工大	94.4	東京工大	93.8
2013	福井大	95.8	名古屋大	94.2	東京工大	93.5
2012	福井大	95.8	九州工大	95.3	名古屋大	93.5
2011	福井大	94.7	岐阜大	93.1	名古屋大	93.0
2010	福井大	94.3	九州工大	93.9	東京工業大	91.3
2009	福井大	97.2	九州工大	95.8	岐阜大	94.8
2008	福井大	95.3	九州工大	94.6	岩手大	90.4

※実就職率は大学通信の「全国大学実就職率ランキング」実就職率＝就職者数÷（卒業者数－進学者数）



参考：福井大学の教育と卒業生についてのアンケート2016（2016年10月実施）及び「新規学卒就職者の在職期間別離職率の推移（厚生労働省HP）」

福井大学が就職に強い3つの理由

社会的に自立し、社会を創造していける人材育成に力を入れ、キャリア・就職支援活動を強力にサポート。福大生は就職先から人間力・学力とともに高く評価されています。

積極的なキャリア形成

教育学部 新しい学校教育を担う実践的指導力のある教員の育成

医学部 テュートリアル教育、医学英語教育により、日々進歩・変化する医療現場への適応能力を育成

工学部 学科・学年を越えた少人数グループで具体的問題を解決する統合型体験学習を実施し、夢を世界でカタチにする技術者を育成

国際地域学部 地域企業等と共に課題を発見・調査・解決する「課題探求プロジェクト」や海外留学等の経験を通して、地域創生を担い、グローバル社会の発展に寄与する人材を育成

学生を支える充実した就職支援体制

- ・就職担当教員、キャリアカウンセラーが内定までサポート
- ・本学独自の就活支援サイト「キャリアサポートシステム」の運用
- ・全国主要4カ所で就職活動の拠点となるサテライトキャンパス設置

きめ細かな就職支援活動の実施

- ・年間を通して充実した就職ガイダンス開講
- ・多くの企業との出会いの場を提供
 - OB・OGとの懇談会、学内合同企業説明会・個別企業説明会、企業訪問バスツアー等



キャリアカウンセラーによる就職相談



全国主要4都市に設置するサテライトキャンパス



4日間で計480社が出展する学内合同企業説明会

本学の教育力は高評価を得ています

THE世界大学ランキング日本版2018

国立大学 33位 にランクイン

(※データ提出のあった86校中の順位：福井大学調べ)

THE世界大学ランキング世界版2019

エントリーのあった世界の大学の**上位5%程度**となる

1001位+グループ にランクイン

世界三大ランキングのひとつとされる、英国の教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）を運営するTES Global社が作る「THE世界大学ランキング」では、教育力に焦点を当てた日本版ランキングも発表されています。本ランキングは、世界の大学進学・留学希望者の大学選びに活用されています。

THE世界大学ランキング日本版HP
<https://japanuniversityrankings.jp/>

福井大学基金 ～ご支援・ご協力のお願い～

福井大学基金では、経済的な理由により修学が困難な学生等への修学支援を目的とし、募金活動を行っております。

皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。
(クレジットカード決済でのお申込みも可能です。)



「古本募金」のご協力もよろしくお願いいたします。

古本募金は、寄附者の方からご提供いただいた古本等を業者が換金し、その金額が福井大学基金に寄附されるものです。(送料等のご負担はございません)

※詳細は、福井大学基金のHPをご覧ください。
<https://www.u-fukui.ac.jp/kikin/>



灯りで心に感動を～キャンパスイルミネーション～



学生の思い出に残る感動を与えるイルミネーションとなるよう、学生自らが企画し、毎年行灯やオブジェを用いた様々な技術・工夫を重ねた福井大学ならではの「ものづくり」としての取組みが行われています。

★開催時期
【松岡キャンパス】毎年10月上旬～10月中旬
【文京キャンパス】毎年10月中旬～10月下旬
★詳細はHPでご確認ください
https://www.u-fukui.ac.jp/cont_life/event/illumination/



研究者検索をご存じですか？

大学のHPから福井大学に所属している研究者（教員）情報を検索できます。所属組織・職名・氏名に加え、キーワードや論文検索もできます。是非ご活用ください。

<http://t-profile.ad.u-fukui.ac.jp/search/index.html>



福井大学の特色ある取組2019

発行 福井大学総合戦略部門経営戦略課
発行日 2019年4月1日

大学へのご意見・ご質問について、お気軽にお寄せ下さい。

福井大学広報センター

〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1

Mail: koho@ad.u-fukui.ac.jp

TEL:0776-27-9733 FAX:0776-27-8518

HP: <https://www.u-fukui.ac.jp/>

